

途中の小雨にも負けず

竜泊ラインを観光資源として活用し、観光の振興を図ることを目的に竜泊ラインウォークが、6月12日(日)道の駅こどもり「ポントマリ」をゴールに長短2コースで行われ、町内外から303人が参加しました。

開会式には当町イメージキャラクターの米ケル、イカリん、米ケルJr.がかけつけ、一緒にラジオ体操第一を行い、体をほぐしました。曇りとなったこの日は、暑すぎずウォーク日和のスタートとなりました。途中小雨が降りましたが、参加者は負けずとゴールを目指して歩いていました。

ゴール後はつみれ汁、おにぎり、イカ焼きが振る舞われ、ウォークの疲れを癒しました。

最後は、恒例お楽しみ抽選会。道の駅で販売されるイカ生干し、塩辛、ワカメ、メバルなど地元特産品の詰め合わせなどが用意され、参加者たちは、自分の抽選番号が呼ばれるようお願いしていました。

参加者らは「気持ちいい汗をかくことが出来た。景色がきれいで、歩いていて気持ちよかった。つみれ汁が美味しくかわりしてしまった。また来年も参加したい」と話していました。



ゴール!!



みんなと一緒にラジオ体操

津軽海峡メバル網外し体験

活ハマクラブが体験ツアーを開催

中泊町活ハマクラブ(代表・佐藤英樹)が6月11日(土)、この時期行われているメバルの刺し網漁の網外しを体験するツアーを開催しました。

第1回目となる6月11日の体験には、町外や中里地区から親子連れなど21人が参加しました。ツアーは、小泊漁協の施設である荷さばき場の見学から始まり、出荷前のメバルなどの魚類や活アワビの説明を受けました。次に製氷庫へ移動し、真冬でもなかなか味わえないマイナス10度の世界を巨大冷凍庫に入って体験しました。ここでは、箱詰めする



小泊で獲れた魚貝類の説明



網外しを体験

ときに使用する氷が山積みになっており、参加者らは氷の山に驚いていました。

その後、漁船の明かりに照らされてメバル網外し体験がスタート。漁師さんの説明を受けたあと、1尾ずつ丁寧に網から外していきました。参加者にはメバルの刺身やじゃっぱ汁が振る舞われ、メバルを堪能していました。

この体験ツアーは、7月30日(土)、8月6日(土)、27日(土)にも予定されています。

メバル膳20,000食突破

はくちょう亭奈良屋で
記念品・感謝状授与

当町の新・ご当地グルメ「中泊メバルの刺身と煮付け膳」が昨年7月3日のデビューから341日目に当たる6月7日(火)、年間目標の2万食を突破し、はくちょう亭奈良屋で記念イベントが行われ、2万人目となった弘前市の蒔苗隆夫さん薫さん夫妻にメバルをかたどったメダル「金メバル」や感謝状などが贈られました。メバル膳を食べた相馬夫妻は「とてもおいしかった。帰ったらこのおいしさを知り合いに広めていきたい」と大満足の様子でした。

メバル料理推進協議会の試算によると、2万食達成による経済波及効果は1億1126万円、外貨獲得額は1億13万4000円となるそうです。同協議会の中畑哲也会長は「目標は達成したが、これからも変わらずに中泊町をアピールしていきたい。2年目はよりたくさんの人に味わってもらいたい」と意気込みを語りました。



メバル膳提供単独1万食突破

はくちょう亭奈良屋
に認定証



はくちょう亭奈良屋がメバル膳の提供を始めて361日目となる6月27日(月)、同店でのメバル膳の提供が1万食を突破し、記念イベントが行われました。1万食目となった平内町の平澤初幸さんと娘の唯衣ちゃんに感謝状や特産品が贈られました。メバル膳を食べた平澤さんは「煮付けがうまい。刺身もぷりぷりでこりこりとした歯ごたえがいい」と舌鼓をうっていました。唯衣ちゃんも煮付けをぱくぱくと美味しそうに食べていました。

その後、S-1あおりの顧問であるヒロ中田氏

から店主の奈良千鶴子さんに認定証が授与されました。新・ご当地グルメを単店舗で年間1万食売のお店は全国的にみても数店舗しかなく、ヒロ中田氏は「1万食という大台を達成したことはすばらしい。この勢いを2年目も続けて行ってほしい」と話していました。店主の奈良千鶴子さんは「様々な要因が重なったおかげだと思っています。これからもお客様に満足していただけるよう細部にこだわっていききたい」と意気込みを語っていました。



にぎやかに祖先と仏を供養

今泉賽の河原例大祭

祖先供養と仏供養を目的に今泉賽の河原講中運営委員会(委員長・小山内清春)が主催する今泉賽の河原例大祭が6月23日(休)に行われました。例年は雨の日が多い例大祭ですが、今年はやませが吹く中での開催となりました。霊場には地元をはじめ、多くの参拝者が訪れ、色とりどりの衣装を身にまとった33体の地藏に線香やお菓子を供えたり、手を合わせ



先祖を供養する参拝者

て先祖の霊を供養していました。運営委員会は、今年も霊場内の広場でさまざまなイベントを企画しました。薄市小学校児童の合唱やなにもさき踊り、薄市こども園児による歌やダンス発表、お山参詣保存会の津軽のお囃子演奏、中里中学校吹奏楽部の演奏、ふるさと交流歌謡ショーが行われ、参拝者を楽しませていました。さらに今年も町のイメージアップ大使の横山ひできさんと町イメージキャラクターの米ケルとイカリんが応援にかけつけ、会場を盛り上げていました。また、ドアップくじ引きなども企画され、子どもたちが参加して楽しんでいました。



米ケルも一緒になにもさき

おいしくな一れ

園児らが五農生と宇宙毛豆の植え付け体験

五所川原農林高校の生徒たちが育てている「宇宙毛豆(大豆)」を使った種まき体験会が、5月30日(月)、野上健さん(下高根)の大豆畑で行われ、富野こども園と薄市こども園の園児18人が参加しました。

この日は、快晴となり作業しやすい日となりました。同校の生徒5人も手伝いに駆け付け、7センチほどの深さの穴を高校生がつくり、続いて園児たちが2粒ずつ種を入れて土をかけていきました。

子どもたちは、高校生のアドバイスをききながら「おいしくな一れ」などと願いを込めながら丁寧に植え付けました。

参加した園児らは「おおきくておいしい毛豆になってほしい。お母さんとお父さんと一緒に食べたい」と楽しそうに話していました。



願を込めて植え付け



中里高校 S B P 活動日誌

メンバー紹介



2年生 竹谷 雅(リーダー)
町の特産品をアピールして中泊町を活性化にしたいです。



2年生 小寺 俊栄
地域に貢献していけるようにがんばりたいです。



2年生 小野 喜也
地域の特産物を詳しく知りた
いと思って参加しました。



1年生 古川 愛華(サブリーダー)
地元についてもっと詳しくな
って、中泊をよく知らない人に
紹介し、良さを知って欲しいと
思い参加しました。



1年生 小寺 諒平
岸川先生の講義を聴いた後、
感想を発表したことでSBPに
誘われ参加しました。



1年生 野上 凌
講義で活動について聴いたと
きに楽しそうと思い、興味を持
ち参加しました。



1年生 小寺 伶佳
中泊町に住んでいても特産物
についてなにも知らず、色々
知ることができればと思い参加
しました。



1年生 秋田 織濃
住んでいるこの地域のことを
知りたいと思い参加しました。



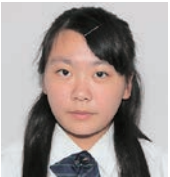
1年生 蝦名 紀佳
地元について詳しく知ること
ができると思い参加しました。



1年生 大屋 レナ
中泊町の活性化に協力したい
と考えて参加しました。



1年生 佐々木 彩乃
地域の活性化ということに興
味があり、この経験が将来な
かの役に立つかもしれないと考
え参加しました。



1年生 安田 愛梨
講義で活動について聞いたと
きに楽しそうだと思い参加しま
した。

活動報告

5月25日(水) 中泊町のセレクトギフトを作るため、町特産物販売所「ピユア」で特産品を購入しました。特産品の種類に驚きました。見た目やおいしそうなものを町をPRできそうなものを中心に選びました。



6月8日(水) 購入した特産品の試食会を中里高校で行いました。みんなで試食し、各自点数をつけます。干餅やお菓子類などが中心でしたが、食べたことのないものばかりでした。どれも美味しく点数をつけるのが難しかったです。



6月10日(金) 中里高校の調理実習室で2回目の試食会を行いました。この日は、手間加える必要のあるものを試食しました。料理の練習になったのでよかったです。全ての試食を終えて、あらためて立派なギフトを作るうと思いました。



6月16日(木) 鱒ヶ沢高等学校で鱒ヶ沢・深浦・中泊の特産品を取り入れたセレクトギフト作りを行いました。この日は、ギフトの箱のデザインのことを話し合いました。自分たちでは思いつかないような意見が次々と出てきたので、勉強になりました。他の学校の生徒と話すことができ、いい経験ができたと思います。前回よりも3校の仲が深まり、会議の雰囲気がよくなりました。きたと感じました。

